

農林中金高松支店が大臣表彰

【高知】農林中央金庫高松支店は16日、地方創生に資する金融機関などの特徴的な取り組み事例に選定され、野田聖子内閣府特命担当大臣から初めて表彰を受けた。

表彰を受けたのは、同金庫が四国電力と共同出資し、2020年11月に農業法人Aitosa（アイトサ）（高知県南国市）を設立した取り組み。高知県でシントウの生産量がピーク時の4割ほどに減少したことから、四国電力が県、南国市、JA高知県と連携し、同法人を設立。同金庫は設立にかかる出資に加え、生産から加

シントウ生産支援

工・流通までノウハウとネットワークを生かし、計画実現を支援した。

同法人は、21年9月に定植し、37坪のハウスに養液栽培でシントウ3400本を育てる。22年7月までに収量30トを見込む。スマート農業にも着目し、シントウの自動収穫ロボットなどの研究、開発を進めるなど高知県のIOP（植物のインターネット）プロジェクトの一員として協力する。また、パート従業員の雇用など地域の雇用創出にも貢献している。

担当した同支店の梅林恒主任は「課題を一

つずつ解決し、企業とJAをつなげたことが評価されたと思う。地域に還元することがゴール」と話した。同金庫は全国で地域活性化、地方創生に取り組むとしている。



シントウの収穫をする従業員（高知県南国市で）